

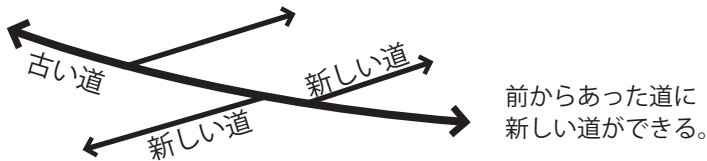
散歩が変わる、景観がわかる

## 景観ウォッチングルート解説 No.1

①  
解説ポイント

## ①石神井庁舎裏に通る古い道（道の形、古さと人の往来を感じる道）

この道は、南田中の方から大泉の方へ結ぶ古くから続く道でした。昔の地図を見ても確認できますが、直観的にこの道の古さを知ることができます。ポイントは、適度にゆらいだ先の見通せない街路と、この道から派生したT字路の多さです。まず、この道が往来として通っていて、そこからまちが開かれた様子が、この道の形に現れています。練馬区内は、こういう昔の人が歩いてつくった道とそこからまちが開かれていく様が多くの道に刻まれています。

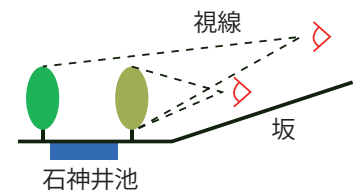
②  
解説ポイント

## ②風致地区内住宅地（整った住宅地～微地形から望む石神井池への眺望のバリエーション）

石神井池の北側は、南面に池と公園を望む良好な住宅地です。池へ向かって下る斜面地になっており、坂の上から池を眺めは、とても素晴らしいです。幾本も延びている坂道は、傾斜の位置が道によって様々で、それによって石神井池の眺めが少しずつ異なり、歩いていてとても楽しい景色を生み出しています。沿道の住宅地のみどりは坂を下って、そのまま公園のみどりまで繋がっており、潤いある住宅地の景観が広がっています。



■坂の上り下りで景観が変わる



坂の上に立つと池の対岸のみどりまで見渡せます

③  
解説ポイント

## ③2つの池の対比がある石神井公園

石神井公園には、石神井池と三宝寺池の2つの池があります。2つの池は、それぞれ異なる特徴を景観として備えています。三宝寺池は、古くからの湧水による天然池（今はポンプで汲み上げています）で、池の周りから周囲の住宅地の様子がわからないほどの森が囲んでおり、囲い込まれた特徴的な景観となっています。一方の石神井池は戦前につくられた人工池で、北側を歩くと街路と池と街並みが調和した開かれた空間になっています。このように特徴の異なる2つのものを比較して対比的に置くことで、似たものを置く以上に深みや厚みを感じることができます。



←沿道と公園が一体となった  
気持ちの良い石神井池沿いの景観  
→周りのまちの様子がわからない程  
のみどりに覆われた三宝寺池



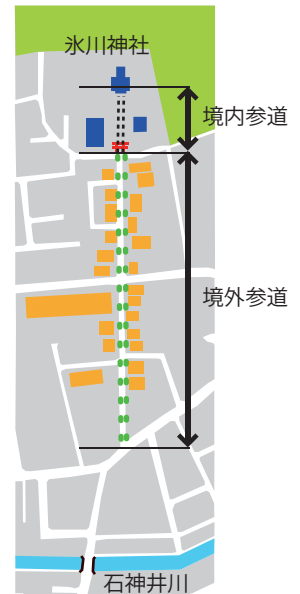
散歩が変わる、景観がわかる

## 景観ウォッチングルート解説 No.2

### ④ 解説ポイント

#### ④川へと下るみどりの軸を持つ氷川神社

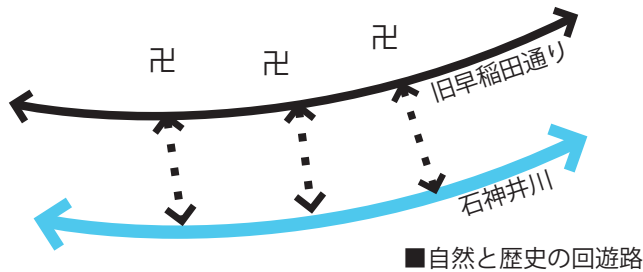
豊島氏との関わりも深い氷川神社は、神社の境内から石神井川へとまっすぐに下る石畳の参道があり、特徴的なみどりの軸線を持っています。神社の境内からそのまま延びている参道は、境外参道と呼ばれ、まちと神社が一体的に繋がっている特徴的な場所です。参道を登ってくると、ある地点から急に神社がまっすぐ目の前に現れて劇的な空間になっています。たまに後ろを振り返りながら歩いてみましょう。



### ⑤ 解説ポイント

#### ⑤川と寺社を巡る回遊路～旧早稲田通り

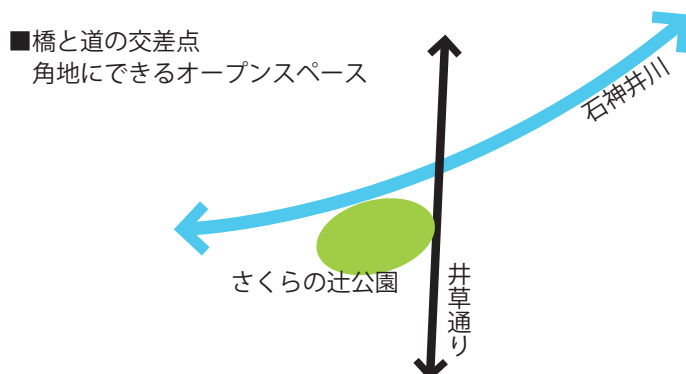
所沢道とも呼ばれる旧早稲田通りは、氷川神社、三宝寺、道場寺、禅定院と寺社が集まる旧道です。この旧早稲田通りは、石神井川が並走しており、散歩の際にはお寺巡りと川辺のそぞろ歩きと2つの道を行き来して、回遊できる空間になっています。こうした歴史と自然を感じることができる都市の厚みが石神井の景観の大事な構造になっています。



### ⑥ 解説ポイント

#### ⑥橋のたもとのオープンスペース～さくらの辻公園

石神井川と井草通りの交差点になるさくらの辻公園は、蛭橋の橋詰にできたサクラが植えられた公園です。角地は、景観上視線が集まりやすい重要なポイントです。ここでは、川のカーブに合わせてできた空間の残余地をオープンスペースとしてうまく利用しており、空間の広がりを感じられます。



散歩が変わる、景観がわかる

## 景観ウォッチングルート解説 No.3

⑦

解説ポイント

## ⑦地形をなぞる石神井川沿いの住宅地

井草通りを渡って、崖線を観察しながら歩いてみましょう。ここはかつての石神井川が蛇行していたときの流域部のへりにあたります。今では河川改修されて、川の流れはまっすぐですが、地図で川の両側を眺めてみると当時の地形をなぞることができます。

また、この辺りは川の改修工事によって宅地開発された住宅地です。塀をよく見てみると、似たような素材の塀ですが、それぞれが別々のデザインをされています。一体的な開発の中に緩やかな統一感とそれぞれの住宅の個性が見てとれ、歩いていてとても楽しいです。



■同じ素材（大谷石）で  
つくられた幾何学模様の塀  
→何パターンあるでしょう？

⑧

解説ポイント

## ⑧細い水路敷と川の広がりコントラスト

旧早稲田通りを歩いていると、時折石神井川へ向かって引き込まれるような細い路地があります。よく見ると、路面には水路敷の表示があたりします。これらは、石神井川へと流れる分流が暗きよになったところ。これを辿って歩いていくと、石神井川の開けた眺望が目の前に現れます。歩きながら、変化する景色を感じてみましょう。



■細い水路敷を抜けると石神井川の開けた景観

⑨

解説ポイント

## ⑨折れ曲がり街路が演出する商店街の賑わい

駅まで戻ってきて、ゲートをくぐって商店街を覗いてみましょう。ここでは、道が折れ曲がっていて、先が見通せません。両側の商店に囲まれている雰囲気醸し出されて、賑わいのただ中に自分がいるようです。ちょうどこの道を奥へ奥へと進むと石神井公園。この先に何があるのだろうかという期待させる予感が、半閉じの賑わい空間をつくる街路の形と商店街の景観ににじみ出ています。



■パークロード石神井



散歩が変わる、景観がわかる

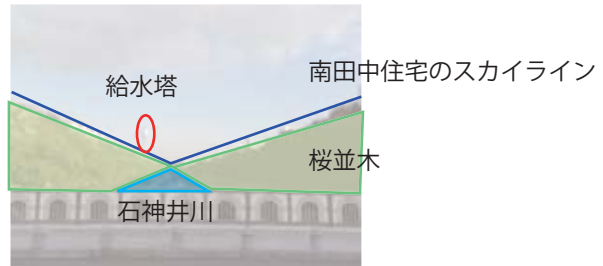
## 景観ウォッチングルート解説 No.4

⑩

解説ポイント

## ⑩南田中住宅と桜の整ったスカイラインのある河川景観

山下橋か和田前歩道橋に立って下流の眺めてみましょう。眼下に広がる石神井川の水面と、両岸に南田中住宅と桜の線形に統一感があり、印象的な河川景観を生み出しています。桜の高さと団地の建物高さもスカイラインが調和しており、心地よい景観となっています。また、視線の奥には、平成みあい橋と給水塔がランドマークとしてあることも景観上のポイントとなっています。



⑪

解説ポイント

## ⑪川の名残りがつくる街路のカーブと斜面地の松の風景

和田堀公園に向かう街路のカーブも先ほどの石神井川の流域跡の地形が作りだしたカーブです。北側の斜面に視線を上げると立派な松が何本も立っています。このあたりの武蔵野台地は、元々このような松が多く自生していました。川の名残と松の風景、石神井の原風景とも言える景色がここから窺い知ることができます。



■崖線を辿って見上げた先の松

⑫

解説ポイント

## ⑫坂道とみどりの印象的な街路～都市計画道路補助 132 号計画地

駅の方へ坂道を上っていくと、急なカーブの坂道とみどりのトンネルが印象的な街路景観となっています。単に坂道があるだけでなく、カーブした曲面にみどりが一望できるので、より一体的な街路景観として、みどりを感じることができます。また、この道は現在都市計画道路として工事が始まっており、今後景観が大きく変化する場所となっています。



■坂道がカーブすることで、みどりの見える量が増える